		※ 一 一 短 后 口 竹 処理	甲基克	整理番号	事務所 ××	管理番	号申告区分	-1 217
		事項		<u></u>	<u> </u>		### F B B	二十号様式
	年 月 日			<u></u>	人番	万	申告年月日	┃号 ■ 様
(あて先)入間市	·							式
所在地					1.法人税	の 上年		1
本市町村が			۲	の申告の基礎	2.法人税	の 上年	月日日	a
支店等の場合は本点所 在地と併記			\vdash		の更正・	決定・再更正によ	さる。	-
(E.E.C.Frac	(電話)		事業種目				
(ふりがな)			- '	, ,,, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
N				現在の資本金		十 億 百 万	f A	a)
法人名				は出資金(1 1 1 1	1 1 1 1	-
(> 10.2° %)	(> 10.2835)			現在の資本金の額 準備金の額の合			1 1 1 1	
(ふりがな) 代表者	(ふりがな) 経理責任者		期	末 現 在	の			1
氏名	氏名		- 1	本金等の	額		1111	_
年 <mark>」月</mark> 日から年	E 月 Bまでの 要	事業年度分の市町村民		果税標準	L	申告書 ※	祖	<u> </u>
(使途秘匿金税額等)	女		+ (0	术 1元 1宗 中 百万 千 円	税率(100)	, 税	額]
法人税法の規定によって計算した法人税額	1	(I						
試験研究費の額等に係る法人税額の特別:		2)					1
還付法人税額等の控除額		3						-
退職年金等積立金に係る法人税額		4						-
						十 億 百 万	千一円	9
課税標準となる法人税額及びその法人税割		(5		0 0 0	100			
2以上の市町村に事務所又は事業所を となる法人税額及びその法人税割額	有する法人における課程	兑標準 (⑤/②×②) 6)	0 0 0	100			
市町村民税の特定寄附金税額控除額		(7)					1
税額控除超過額相当額の加算額)					1
外国関係会社等に係る控除対象所得額等相当額の控除額)				<u> </u>	-
外国の法人税等の額の控除額		(II)					1
仮装経理に基づく法人税割額の控除額)					-
差引法人税割額 ⑤-⑦+⑧-⑨-⑩-⑪ 又は⑥-⑦+⑧-⑨-⑩-⑪							0 0	_
既に納付の確定した当期分の法人税割額		-9-10-11						
		<u>(1</u>					0 0	関与税理·
租税条約の実施に係る法人税割額の控除額								名 程 士
この申告により納付すべき法人税割額 ⑫一⑬一⑭							0 0)
均 算定期間中において事務所等を有していた月数 等				用×旬			0 0)
割 既に納りの催足しだ当期分の均等制領					18		0 0)
額この申告により納付すべき均等割	須 17-18				19		0 0)
この申告により納付すべき市町村民税額 15+19					20		0 0)
20のうち見込納付額					21)		T T	
差 引 20-21					22			1
当該市町村内に所在				分害	基準	4hl or	亥市町村分の均等 ○税率適用区分に	1
名 称	事務所、事業所	所又は寮等の所在地		当該法人の全従業者数	村分の行	当該市町用	いる従業者数	
								-
					200			
合		計				¥ 1 #1 Ø	<u> </u>	╡.
指る 区 名 ※ スコード 月数	7 従業者数 均等 人	等割額 決 算 確 定 解 散 <i>の</i>				法人税の 申告書の種	青色・その他	電話
定場		解 散 の 異ない。 一 1 0 0 残余財産の 分配又は引渡	最後の	年月年月		類 翌期の中間	冊 조	†
都合		0 0 法人税の期末現在の資		[円	申告の要否	要・否	1
市の		100 この申 中間申 100 提会の計算	告	' '		法人税の申告期限の延長の	有・無	1
(Z 11)				年月	日まで銀行		支店	-
申の		プログログラ は何を受ける する金融機 プログラ払方	期	口座番号(普通・当風			又占	Ί
告計		0 0			<u>=</u> /	十 億 百 万	4 p	a a
す算		、	付	請求額	マガムかず		1 1 1 1	4_
	1	00 法15条の4の	徴収着	酋予を受けようとす	る柷額	l 🎚 '	I I	